

平成26年度 (上戸祭) 小学校 学校評価書

1 教育目標 (目指す児童像含む)

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝

自分や他人を大切にする子ども

進んで学ぶ子ども

たくましく生きる子ども

2 学校経営の理念 (目指す学校像含む)

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に掲げた児童の育成を目指す。そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

3 学校経営の方針 (中期的視点) ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 児童の power up のために、個に応じた指導を充実させるとともに、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図るとともに、社会性の育成を推進する。
- (2) 児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- (3) 教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進を図る。

〔星が丘地域学校園教育ビジョン〕

「未来を拓く豊かな社会性の育成」

4 今年度の重点目標 (短期的視点) ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 未来を見つめ、夢と希望に満ちた学校づくり

【学習指導】

- ・ 学んだことを生活の中で活かすことのできる児童の育成
- ・ 互いの意見を生かし主体的に活動する学級集団づくり

【児童生徒指導】

- あいさつと言葉遣いを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
- ・ 互いのよさを認め合い、他人を思いやることのできる児童の育成

【健康 (保健安全・食育)・体力】

- ・ 友だちと豊かに関わりながら進んで運動に取り組み、健康・体力の向上に励む児童の育成
- ・ 体育の授業や行事等の工夫による、運動の日常化

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※網掛けのない部分が計画、網掛けの部分は評価結果を受けて記入する。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

◎A5のいじめに関するものは、今年度新たに入った評価項目です。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	1 上戸子どもまつりなどの児童会活動や各委員会が企画・運営する集会・交流活動を充実させたり、ロング昼休みを有効活用したりして、児童の仲間づくりや集団遊びを支援します。 2 年2回の教育相談週間だけでなく、日常的に児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めます。 3 児童の長所を見取り伸ばしていくという観点で、職員間で情報交換を密にし児童賞賛を積極的に行っていきます。	B B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.0% 保護者の肯定的回答 97.5% ・児童会活動をはじめ、縦割り班活動の場も積極的に取り入れ、明るい学校生活の実現を図っている。 ・教育相談や日々の児童の見取りを細かく行い、指導と賞賛、問題行動への対処を適切に実施してきた。 【次年度の方針】 ・これまでの各種委員会活動の意欲的な取り組みを継続させながら、児童主体の魅力ある活動を推進していく。 ・「あいさつ金メダル」をはじめ、あらゆるところで職員全体で児童賞賛できる場を設定していく。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	1 授業の初めにねらいを明確に提示し、学び合い活動を効果的に取り入れて、分かる授業を行いきめ細かい指導に努めます。 2 教職員は、明るいあいさつを率先垂範し、丁寧な言葉遣いや誠実な対応を心掛けます。	B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.3% 保護者の肯定的回答 96.4% ・授業の初めに本時のねらいを提示し、特に算数科での授業の進め方の研究をもとに、全教職員が共通認識のもと授業を行うように心がけることができた。 ・児童への言葉かけや保護者への対応を丁寧に実施し、特に問題が生じた場合の保護者への対応に学校全体で取り組む体制ができている。 【次年度の方針】 ・来年度も、学び合い活動を効果的に取り入れるとともに、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・児童指導・特別支援にかかわる対処を組織的に実施する体制を維持するとともに、さらに人権感覚を磨き、児童・保護者・地域住民への対応を誠実かつ丁寧に心がけていく。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答85%以上	1 「かみとよい子のやくそく」を確認したり、児童の実態に応じて指導すべきポイントを絞り込み毎月の生活目標を設定したり、学期ごとに振り返りをさせたりして、集団生活の中できまりを守っていこうとする態度の育成を図ります。 2 登下校時や上戸タイム、朝の会や帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導をしています。 ○3 地域や地域学校園内の中学校等と連携して、児童が中心となってあいさつ運動を展開します。	A 【達成状況】 全体の肯定的回答 92.9% 教職員保護者の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 94.3% 地域住民の肯定的回答 91.1% 児童の肯定的回答 86.2% ・生活のきまりに関しては、規範意識の低い児童が見られたため、状況を見て、随時指導してきた。校庭の使い方や遊び方等について、教員間の共通理解を行い、全校で指導を行った。 ・宮っ子チャレンジやあいさつ運動などで地域学校園内の中学校と連携し、マナーアップ委員会の「あいさつ金メダル」を重点としてあいさつ運動を推進していくことができた。 A 【次年度の方針】 ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、「かみとよい子のやくそく」と「職員が共通理解しておきたい指導のめやす」を中心に、全職員が共通して児童に指導し、学期ごとに行動を振り返らせ規範意識を高めていく。 ・地域住民の肯定的回答を高めるため、児童会と連携し、児童が中心となってあいさつ運動を推進し、意識の徹底を図る。 ・地域学校園内の中学校との連携によるあいさつ運動を継続していく。
A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童、保護者の肯定的回答90%以上	1 漢字、計算、音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図ります。 2 分かる授業のための教材研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合いを重視した授業を展開します。 3 算数におけるティームティーチングの実施や、かがやきルームにおける個別指導の充実などにより、児童一人一人に応じた効果的できめ細かな指導に努めます。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 95.6% 保護者の肯定的回答 92.0% ・宿題・自主学習・小テストなどを通して、児童の基礎基本の定着を図った。朝のはげみ学習において「計算大相撲」を実施することにより、計算力が向上してきた。 B 児童の基礎基本の定着を図った。朝のはげみ学習において「計算大相撲」を実施することにより、計算力が向上してきた。 ・「学んだことを生活の中で活かすことのできる児童の育成」をテーマにした算数の授業研究会を通して、教材開発・発問の工夫・学習形態の工夫について全校体制で研究を進めることができた。 B かがやきルームにおいて、個別指導の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・算数科の授業を中心に、引き続き教材研究・授業研究を進め、互いの学びをより深め合える授業の実践を目指すとともに、より効果的できめ細かい指導を行っていく。

A5 教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 「いじめはどの児童にも起こりうる」との認識の下、未然防止の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努めます。 2 いじめを早期に発見できるよう、児童が相談しやすい環境を整備するとともに、児童理解を深め、信頼関係の構築に努めます。 3 いじめが起きたときには、事実確認を正確かつ迅速、組織的に行い、被害児童を守り通すとともに、加害児童に対しては「いじめは決して許されないこと」を毅然とした態度で指導します。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.5% 保護者の肯定的回答 84.0% ・いじめアンケートを年4回実施したり、教育相談を年2回実施したりして、いじめの未然防止と早期対応を行った。 ・保護者の肯定的回答が低いので、学校としてのいじめ防止の取り組みをHPや手紙などで発信していくことが必要である。 【次年度の方針】 ・いじめアンケートの年4回実施、教育相談の年2回実施、携帯所持調査の継続、職員会議後の情報交換の実施などにより、いじめの未然防止と早期対応を行い、その取り組みを地域に発信していく。 ・いじめゼロ集会の実施やいじめゼロ標語の作成・ポスターなどの掲示により、いじめゼロ運動を発展・推進していく。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	1 授業を計画に沿って適切に実施し、「ザ・チャレンジ」「修学旅行」「冒険活動教室」などの学校行事を子どもの主体性を大切に実施します。 2 学校行事や教育活動についての反省をもとに今後の方針を検討するなどして、教育活動の工夫・改善を図ります。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.6% 教職員の肯定的回答 96.8% ・学年の発達段階に応じた「わかる授業」を積極的に実施できた。学校行事も、児童主体を原則に、達成感を味わえる内容になっている。 ・前年度の反省をもとに行事の精選や充実を図る改善を加えて実施してきた。 【次年度の方針】 ・新たな学校課題を設定して共通理解のもと、さらに「わかる授業」の充実を図るとともに、今年度の各行事の反省を活かした行事設定を進める。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	1 学校自由参観や児童会の活動、各学年で行う出前授業、文化的行事など、様々な機会を捉えて保護者の参加を促し、学校を保護者や地域に公開します。 2 学校だよりの地区回覧、学年だよりの各種のたよりの配付、ホームページの適宜更新を行い、学校の取り組みや児童の姿を、分かりやすく紹介します。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 97.3% 地域住民の肯定的回答 98.2% ・教育活動の保護者や地域住民への公開の場を適切に設定してきた。 ・学校長の詳細な学校だよりをはじめ、ホームページも迅速に更新するなど、定期的な情報の発信がなされていた。 【次年度の方針】 ・今後も、適切な時期の学校公開の場と各種便り・ホームページの適宜発信・更新を推進していく。

A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」

⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答90%以上

1 保護者や地域の各種団体、企業等の協力を得て、児童が人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させます。

2 地域コーディネーターと連携し、ボランティアと綿密な打ち合わせを行い、地域の人材を積極的に活用して、教育活動を充実させます。

3 児童の安全を守るために、PTAや地域ボランティアと協力して、朝の登校指導や集団下校指導・「子ども110番の家」や通学路における危険箇所の確認、引き渡し訓練を実施します。

B

【達成状況】

教職員の肯定的回答 96.8%

保護者の肯定的回答 97.9%

地域・住民の肯定的回答 100%

・地域人材や各種団体を活用した教育活動を積極的に取り入れ、児童の豊かな体験活動が実施できている。

・地域ボランティアの方の意欲的な協力のもと、充実した教育活動・教育環境が実現している。

B

【次年度の方針】

・より充実した学習環境を実現するため、地域コーディネーターとの綿密な連携をさらに図っていく。

・ボランティア活用の望ましいあり方をさらに検討し、教育活動への協力について丁寧な打合せを実施していく。(特に家庭科・書道ボランティア)

・地域の方々の協力をいただきながら、できるだけ早い時期の通学路点検を実施するとともに、安全な登下校の継続を図る。

B

A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」

⇒全体の肯定的回答90%以上

1 清掃用具の使い方や清掃の仕方についての指導に加えて、全校クリーン活動や清掃強化週間の実施、美化委員会による清掃目標により、自分たちの学校を自分たちできれいにしようとする意識を高めていきます。

2 潤いのある環境づくりのため、地域ボランティアの協力を得て、普段の清掃だけでは十分に手が回らない場所の清掃活動、花壇整備、校内掲示の充実に努めます。

B

【達成状況】

全体の肯定的回答 95.4%

教職員保護者の肯定的回答 100%

保護者の肯定的回答 96.7%

地域住民の肯定的回答 96.4%

児童の肯定的回答 88.6%

・日々の清掃指導や美化委員会による集会活動により、自分たちできれいにしようという意識が高まっている。また、地域ボランティアと一緒に清掃することで、清掃の仕方が分かり、清掃への意欲の向上が見られた。

B

【次年度の方針】

・教職員が率先して日々の清掃を行うことで、児童への手本となり、児童と共に清掃活動や校内美化に取り組んでいく。

	B1 地域協議会を核として、児童が様々な体験ができる温かい学校づくりを進めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答90%以上 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	1 地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動を展開します。 2 地域・家庭・学校が連携して、「全校クリーン活動」「ふれあい昼食会」「感謝の集い」を実施したり、ご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場を設けたりして、地域を愛する気持ちを育てます。 3 宮っ子ステーション「かみタマ」との連携を図り、児童の放課後や長期休業中の多様な体験活動、居場所づくりに努めます。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>96.3%</td></tr><tr><td>教職員保護者の肯定的回答</td><td>96.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>97.9%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>100%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>90.3%</td></tr></table> B ・地域コーディネーターやふれあい地域協議会の全面的な協力をいただき、よりよい学習環境・豊かな体験活動の実現が図られている。 B ・多くの児童が「かみタマ」に参加し、放課後の幅広い体験・学習活動が充実している。 B ・多くの活動が充実している中で、親子クリーン活動の参加人数が少ないことについて検討が必要である。 【次年度の方針】 ・地域とのかかわりの場をさらに充実させるため、今後も地域コーディネーターとの連携をより深め、豊かな体験活動を計画・実施していく。 ・家庭と学校の連携のひとつである親子クリーン活動へのより多くの参加を促す方策を探る。	全体の肯定的回答	96.3%	教職員保護者の肯定的回答	96.8%	保護者の肯定的回答	97.9%	地域住民の肯定的回答	100%	児童の肯定的回答	90.3%
全体の肯定的回答	96.3%												
教職員保護者の肯定的回答	96.8%												
保護者の肯定的回答	97.9%												
地域住民の肯定的回答	100%												
児童の肯定的回答	90.3%												
教育活動の状況	OA10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答率80%以上	○1 マナーアップ委員会を中心にあいさつ運動を実施したり、地域の方やPTA、地域学校園と連携した取り組みを実施したりして、学校内・外でのあいさつの習慣化を図ります。特に地域の方への元気なあいさつの励行に取り組んでいきます。 2 教職員が率先して、明るいあいさつに努めます。	A 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>87.9%</td></tr><tr><td>教職員保護者の肯定的回答</td><td>96.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>83.6%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>78.9%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>92.1%</td></tr></table> B ・マナーアップ委員会による朝会や朝の会でのあいさつ運動やあいさつ金メダル運動や指導を行っているが、個人差が大きく、地域の方へのあいさつが習慣化されていない。 B ・教職員自ら明るいあいさつの率先垂範に努め、児童が自然なあいさつができるよう啓発することができた。 【次年度の方針】 ・マナーアップ委員会のあいさつ運動を更に充実させ、友達だけでなく地域の方への明るい自然なあいさつの励行に取り組んでいく。 ・地域学校園内の小・中学校と連携し、あいさつ運動を、さらに活発に展開していく。	全体の肯定的回答	87.9%	教職員保護者の肯定的回答	96.8%	保護者の肯定的回答	83.6%	地域住民の肯定的回答	78.9%	児童の肯定的回答	92.1%
全体の肯定的回答	87.9%												
教職員保護者の肯定的回答	96.8%												
保護者の肯定的回答	83.6%												
地域住民の肯定的回答	78.9%												
児童の肯定的回答	92.1%												

○A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒全体の肯定的回答率 80%以上	○1 時・場・相手に応じた適切な言葉遣いについて粘り強く指導に努めるとともに、家庭や地域での指導の協力について働きかけていきます。 2 相手を思いやる「ふわふわ言葉」を日常的に使うことで、相手を気遣いながら名前を呼んだり、会話をしたりするなど、思いやりのある心の育成を図っていきます。	A 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>82.5%</td></tr><tr><td>教職員保護者の肯定的回答</td><td>100%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>78.7%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>66.1%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>85.3%</td></tr></table> A ・時と場と相手に応じた言葉遣いの意識は高くなってきているが、保護者や地域住民の肯定的回答が低い。今後も道徳や学級活動等の時間を使い、適切な言葉遣いの大切さについて指導し、家庭や地域にも啓発・協力を呼びかけていく。 【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の時間、マナーアップ委員会の集会活動で、相手を思いやる「ふわふわ言葉」や丁寧な言葉遣いの指導・啓発を行うことで、相手を気持ちを考えながら会話をしたり、思いやりのある心の育成を図ったりしていく。	全体の肯定的回答	82.5%	教職員保護者の肯定的回答	100%	保護者の肯定的回答	78.7%	地域住民の肯定的回答	66.1%	児童の肯定的回答	85.3%
全体の肯定的回答	82.5%											
教職員保護者の肯定的回答	100%											
保護者の肯定的回答	78.7%											
地域住民の肯定的回答	66.1%											
児童の肯定的回答	85.3%											
B2 友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	1 縦割り班の活動を充実させ、異学年の交流を図ります。 2 児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努めます。 3 一人一人の児童が居がい感をもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉掛けを行ったりすることに努めるとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行います。	B 【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>94.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>97.5%</td></tr></table> A ・わかば給食や上戸子ども祭りや各委員会のイベントなどで交流を図ることをとおして、児童の自主性を育てることができた。 ・職員会議後に児童に関する情報交換を行ったり、いじめアンケートや携帯電話の所持調査、Q-U検査の結果などから児童の生活や悩み・学級集団の特徴や傾向を把握したりすることをとおして、児童理解が深められた。 B 【次年度の方針】 ・児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、携帯電話の所持調査、Q-U検査の結果の分析活用などにより、児童一人一人に目を向けた指導を継続して行っていく。 ・一人一人の児童が居がい感をもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉掛けを行ったりすることに努めるとともに、悩みを持つ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりに心掛けていく。	児童の肯定的回答	94.0%	保護者の肯定的回答	97.5%						
児童の肯定的回答	94.0%											
保護者の肯定的回答	97.5%											

健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答率 90%以上	1 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、体育の授業において、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、ソフトボール投げの能力を高めるための補強運動を行います。 2 夏休み特別水泳教室の実施に加えて、持久走がんばりカード、縄跳び・水泳検定カードを活用し、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにします。 3 竹馬、一輪車、縄跳びジャンピングボード等を有効に活用し、児童が楽しんで運動に取り組めるようにします。 4 上戸タイムや昼休み時における屋外遊びを奨励します。	B B B A	【達成状況】 児童の肯定的回答 88.0% ・スポーツ委員会主体のドッジボールフェスティバルやバトン投げフェスティバルの開催、休み時間のボール投げ遊びの奨励等に努めた。また、準備運動や補強運動を工夫し、苦手としている運動能力の補強に努めた。今後は、児童会が主体となって、朝会時や給食時に外遊びを奨励する呼びかけを充実し、運動を苦手としている児童の意欲を喚起していきたい。 【次年度の方針】 ・1については、引き続き体育の授業に補強運動を継続して行い、基本的な動きや筋力を高めていく。 ・2については、引き続き各種検定カードを活用し、児童がめあてを持って運動に取り組めるようにする。 ・3については、児童会を中心に竹馬および一輪車の貸し出しを行うとともに、校庭にジャンピングボードを16台設置し、運動の日常化に努める。 ・4については、スポーツ委員会主催のさらなるイベントの充実に努め、児童の関心を高めるとともに体力の向上を図っていく。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童・保護者の肯定的回答率80%以上	○1 食育だよりを毎月発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、食の大切さについて啓発を行います。 2 食物アレルギーのある児童の保護者との面談及び対応策の検討をして、個に応じた望ましい食習慣を育成します。 3 教科における「食に関する指導」や給食時の栄養指導等を実施するとともに、各種たよりで取組の様子を伝えていきます。	A B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 82.4% 保護者の肯定的回答 73.0% ・食育だよりを発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、児童が好き嫌いなく、栄養のバランスを考えて食事ができるようにした。 ・学校給食委員会（保護者）において子どもの好き嫌い対策について協議し、報告を作成・配布し啓発をした。 【次年度の方針】 ・食育だよりや、各教科、お弁当の日、行事、給食委員会の活動等を通して継続的に指導する。

B3 安全と健康管理に気をつけ、元気に生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、安全と健康に気をつけて生活している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率80%以上	1 健康診断後に治療依頼の連絡をしたり、保健だよりを発行したりして、健康な生活習慣育成のための情報を提供します。また、給食後の歯磨きを全学年実施します。 2 肥満傾向児童に対して、養護教諭と学校栄養職員が栄養健康相談を継続して実施し、家庭と連携して健康な生活習慣の育成を図っていきます。 3 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めるため、学年に応じた安全指導を行い、避難訓練や、不審者対策、交通安全指導を定期的に行います。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.8% 教職員の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 92.9% ・昨年度と比較して、児童、教職員、保護者すべての肯定的回答が増えた。 ・本年度はすべての学年で給食後の歯磨きを実施できた。 ・栄養士と養護教諭による継続的な健康栄養相談を実施した結果、児童の知識は深まった。 B 【次年度の方針】 ・引き続き家庭と連携をとりながら、自分の健康・安全は自分で守ろうとする意識を高めていく。 ・安全教育については、日常の保健指導や各種訓練を通して、具体的に繰り返し指導する。
A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上 学 習 A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	1 自分の考えや思いをまとめて書いたり、発表したりして豊かに表現できる児童を育成します。 2 発達段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のポイントを示し、互いの意見を伝え合い、児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い、学び合う活動を効果的に取り入れて授業を行います。 1 話をきちんと聞く態度を身に付けさせるため、授業や行事などの集会活動において、日常的に聞き方の指導を行います。 2 児童が安心して自分の考えをもち発表し、友だちの考えや気持ちを尊重できるよう、活動の目的に応じて学習形態を工夫しながら、授業の中で話し合い活動を積極的に設定します。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 93.1% B ・児童、保護者ともに進んで学習に取り組むことができるようになったと感じている。 ・算数でのノートのとり方や自分の考えをまとめるための言葉のマニュアルを作成し、全教職員の共通理解のもと、授業を行うことができた。 ・様々な学習形態での話し合い活動を通して、自分の考えと友達の考えを比較したり、自分の考えをまとめて話したりする力が育ってきている。 B 【次年度の方針】 ・授業の中で、児童同士で考えを深めていけるような場を更に多く設定し、話し合いの活性化を図っていく。 B 【達成状況】 児童の肯定的回答 85.1% 教職員の肯定的回答 100% ・朝会や集会時に静かに集合し、正しい姿勢で最後まで集中して話を聞くことができるようになった。 ・様々な学習形態での活動に慣れ、児童それぞれが目的をもって話し合いに参加するようになってきた。 B 【次年度の方針】 ・引き続き、活動の目的に応じて学習形態を工夫しながら、積極的な話し合い活動の充実を図っていく。

	B4 家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「児童は、毎日、家庭学習をしている」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	1 家庭学習の手引きに基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図ります。 2 児童の提出した家庭学習の課題やノートによく目を通し、認め励ますことで意欲づけを図ります。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 79.1% 教職員の肯定的回答 93.3% 保護者の肯定的回答 79.1% ・家庭学習に関する認識は、児童と保護者で共通している。 ・学校から与えられた家庭学習の課題には積極的に取り組んでいる様子が見られる。 ・児童のノートや提出物をよく確認し、内容に応じて個別指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・家庭学習の時間等を、地域学校園で共通理解を図りながら、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるよう、支援していく。 ・保護者会、個人懇談等において、個に応じた家庭学習の内容や方法について示していく。
本校の特色・課題等	B5 栄養士と調理員が連携して、安全でおいしい給食を供給し、食育の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学習内容定着度調査 食事についてのアンケート「行事食や郷土料理を知っている」 ⇒5・6年生の肯定的回答率80%以上 B6 読書活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、本をよく読んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	1 旬の食材を活用し、季節感のある安全・安心・おいしい給食を提供します。 2 食物アレルギーの対応については、保護者との面談を十分に行い、栄養士・担任・養護教諭・調理員の連絡を密にし、事故のないよう努めます。 1 朝の図書の貸し出し、ファミリーブックの実施、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進します。 2 「ファミリーブック」の実践等を通して、家庭読書の充実を図ります。 3 家庭の理解と協力を呼びかけながら、効果的な取り組みを継続し、さらに読書の有用性や楽しさを味わえるよう配慮して、読書指導の充実を図っていきます。	B 【達成状況】 5年生の肯定的回答率 80.5% 6年生の肯定的回答率 86.1% ・行事食、郷土料理についての一口メモを給食時に知らせ啓発を図った。 ・校医の吉野先生による食物アレルギーについての講話をいただいたことにより、職員の理解が深まった。 【次年度の方針】 ・季節感のある安全な給食を引き続き提供する。 ・食物アレルギー対策においては、関係者との連絡を密にし、事故のないよう努める。 B 【達成状況】 児童の肯定的回答 84.5% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 77.8% ・朝の図書の貸し出し、ファミリーブックの実施、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、児童の読書量が増えてきている。 ・保護者向けの読書に関するアンケートに教職員が目を通し、指導に役立てることができた。 B 【次年度の方針】 ・家庭の理解と協力を呼びかけながら、今年度の効果的な取り組みを継続し、さらに読書の有用性や楽しさを味わえるよう配慮して、読書指導の充実を図っていく。

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

- ・学校行事や保護者への公開授業、児童会活動などについては、前年度の反省をもとに時期や内容を検討し、改善がなされている。来年度に関しても検討を加え、さらに改善を図り、計画に活かしている。
- ・「地域とともに歩む学校」の充実に向けて、各種便りの発行やホームページの更新が適切に実施されている。
- ・充実した教育活動や教育環境が実現されている。多くのボランティアの方が進んで学校に足を運んでくださり、PTAやふれあい地域協議会の方の温かい全面的協力がたいへんありがたい。
- ・学習にかかわるボランティアの方の活用については、学習のねらいと身に付けさせたい技能を考慮し、どれだけの協力を依頼するか、具体的な打合せが必要である。
- ・PTA親子クリーン活動への参加人数は、少しずつ増えてはいるが、さらに参加を増やす手立てを考えたい。

《児童指導面》

- ・児童を育てる機会を増やし、触れ合う時間を確保することで信頼関係を築くとともに、Q-U検査の分析、いじめアンケートや携帯所持調査の定期的な実施、教育相談・児童の情報交換等をとおして、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めてきた。一人一人の児童の理解と十分な実態把握に努め、さらに積極的・組織的な児童指導の充実を図っていく。
- 地域学校園での今年度の目標である、「明るく元気なあいさつと丁寧な言葉遣い」、「いじめの未然防止」を合言葉に、本校では実践に努めてきた。学校でのあいさつや教師への言葉遣いについては、おおむね好ましい状況になってきているが、保護者や地域の方へのあいさつや学校外での保護者や友達への言葉遣いについては肯定的評価が低いため、今後も日々の指導や道徳や学級活動での授業の実践を通して、保護者や地域の方へ取り組みを啓発しながら、継続的に意識の向上に取り組んでいきたい。
- ・学校生活のきまりや交通ルール、生活のマナーについては、地域の方の肯定的回答がまだ不十分な面もあるので、児童一人一人の社会生活でのマナーへの意識を高めていけるよう、継続して指導に当たっていききたい。

《体力・健康面》

- ・安全でおいしい給食の提供と食育の推進に努めてきた。
- 地域学校園において、食事のマナーの向上に取り組んでいるので、家庭との連携を図りながら繰り返し指導していききたい。
- 感染症対策においては、地域学校園と情報を交換し、校医の先生の指導助言を受けながら適切に行っていく。
- ・フェスティバルの開催やボール投げ遊びの奨励、準備運動の補強運動の工夫をして、苦手としている運動能力の補強に努めてきた。今後は、外遊びを奨励する呼びかけをしたり、イベントを充実させたりして、児童の意欲を高めとともに体力の向上を図っていく。

《学習面》

- ・算数を中心に基礎学力の向上をねらい教材開発を行ってきた成果があらわれ、基礎基本の定着が図られてきている。今後かがやきルームの活用を通して個に応じた指導の充実にも努めていく。
- 落ち着いた学習に取り組めるようになり、話す力、聞く力がともに向上している。学習形態の工夫により、話し合い活動をより活発に行えるようになってきたので、今後も継続していく。
- 家庭学習のやり方や時間について、学年に応じた助言や指導を、児童だけではなく保護者に向けても行っていく必要があると思われる。
- ・今後も、児童の読書活動が活発なるよう働きかけを積極的に行っていく。

6 学校関係者評価

《あいさつについて》

- ・あいさつに関する肯定的回答の割合は、保護者 78.7%，地域住民 66.1%と低いですが、顔を知っている人と知らない人とは、子どもたちの対応が違うのは当然である。地域の方の対応も大事である。地域の方のあいさつされたら、あいさつができるようにするとよい。
- ・子どもから元気にあいさつしてくることを期待している人もいるが、知らない人にもあいさつをするというのは難しい。知らない人にはついていけないという指導とのギャップもある。相手が分かればあいさつはできるのではないだろうか。

- ・あいさつに関する肯定的回答の割合は、教職員は 96.8%，児童は 92.1%である。学校内でのあいさつはできているのではないだろうか。
- ・保護者のあいさつに関する肯定的回答の割合は、83・6%である。家庭の中と学校の中で差をつけずに、同じようにあいさつができるとよい。

《言葉遣い》

- ・言葉遣いの肯定的回答の割合は、保護者 78.7%，地域住民 66.1%と低い，時と場，相手に合わせた言葉遣いをさせたい。
- ・肯定的回答の割合が低いという裏を返すと，大人はちゃんとあいさつをしているか，きちんとした言葉遣いをしているかということになる。そういったことも考え，大人も改善する必要があるのではないだろうか。
- ・自由記述にもあるが，学校の中にいるときと，かみタマ・学童にいうときとでは，子どもの意識が違う。学校外で子どもの言葉遣いが気になることがある。

《清掃について》

- ・以前は，階段にほこりが多かったが，最近はきれいになった。

《登下校について》

- ・下校のマナーが悪い。路肩から車道に出る子，縁石に乗って歩く子がおり，危険だと感じる。

《いじめについて》

- ・いじめアンケートをもとに，未然防止や早期対応を心がけていることが分かった。気になることがあったときには，担任が聞き取り解決をしているということで安心した。

《運動会について》

- ・上戸祭小学校では，なぜ春に運動会を開催しているのかという理由（・学年が変わって早い時期に集団行動を身に付けさせたい(特に1年生)・運動会の練習に適した時期である。）を保護者に広く発信するとよい。
- ・運動会で話を聞く場面では，その日の気温・湿度等の状況をみて，立っている時間を短くする，座らせるなどの対応をするとよい。前もって，立っていてつらくなったら座るように指導しておくことも必要。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・今年度も，学校教育活動のねらいや内容について家庭地域に向けて情報発信を行うことに心がけ，両者の連携協力による取り組みの充実に努めてきた。その結果，学校評価全体において，好意的，建設的なご意見ご提言をいただくことができた。これらを真摯に受け止め，次年度以降の学校改善に活かしていくとともに，学校教育活動に対する理解が深まるよう，折にふれ，そのねらいや意図について，家庭地域にお知らせするように努める。
- ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために，今後も，状況に応じて教員間の共通理解を行い指導の充実を図っていく。
- あいさつについては，教職員が率先垂範に努めるとともに，保護者や地域，及び地域学校園の中学校と連携し，継続的に意識の向上に取り組んでいく。また，機会をとらえて地域の方にもあいさつについて協力をお願いする。
- ・言葉遣いに関しては，家庭と連携しながら，時と場，相手に合わせた言葉遣いができるように，根気強く指導していく。
- ・今後も，いじめの未然防止と早期対応に努め，その取り組みを家庭や地域に発信していく。また，児童が相談しやすい環境を整備するとともに，児童理解を深め，信頼関係が構築できるようにする。